

小学校社会科の授業におけるICT活用例

福島県教育センター

1 学級全体で書き込み、グループ分けし、考える授業

◎ Jamboard（GoogleCloudを活用した共同編集用アプリ）など共同編集用アプリの活用

例えば・・・

6年生

「織田信長が力を強めていくことができた理由を考えてみよう」

- 画面を共有しながら自分の考えを付箋に書いていく。（3～4人程度の班に分けて）
- 出された付箋を視点ごとにグループ分けしていく。
 - ・ 文化
 - ・ 戦
 - ・ 政策
- 各班でまとめた内容を発表し合い、比較検討する。

この学習方法のメリット

- ・ 常に他者の考えと自分の考えとを比較しながら取り組むことができる。
- ・ 苦手な児童にとっては、他の児童の学びの様子を把握できるので心強い。
- ・ 教師にとっても児童の思考の様子を把握しやすい。
- ・ 万が一臨時休業等で自宅で学習する状況になっても、お互いの家庭で考えを共有できる。
- ・ 他の単元、他の教科、他の校種でも同じような学習過程を取り入れることができる。

2 校外学習の代わりにすることができる

◎ ZoomやGoogle Meetの活用

この学習のメリット

- ・ 実際に出向いたり、来校してもらったりしなくてもインタビューしたり、話を聞いたりすることができる。
- ・ 事前打合せを行いやすい。
- ・ 万が一臨時休業等で自宅で学習する状況になっても、実施が可能である。

3 グループごとに単元のまとめを行う

◎ Googleドキュメントの活用

※ Googleドキュメントでは、縦書きができないのが課題

例えば・・・

5年生「これからの食料生産とわたしたち」のまとめの授業

・ 4名の班であれば

○日本の食料生産をめぐる課題 ○食生活の変化と食料生産 ○食の安全・安心 ○新たな取り組み
の4つのテーマで分担して一つのシート上にまとめていく。

この学習方法のメリット

- ・ シート上にそれぞれのテーマについてまとめていく場所を決めれば、同時に編集することができるため、同じ班の児童同士で相談しながら作業しやすい。
- ・ 繰り返し修正することができる。
- ・ 万が一臨時休業等で自宅で学習する状況になっても、家庭で同様の学習を行うことができる。

4 ミニテストの作成

◎ Googleフォームの活用

この学習方法のメリット

- ・ 選択肢問題、記述問題の両方を作成可能
- ・ 正答、配点を設定することで、採点、点数も自動で記録される。

5 低学年の活用法

- 生活科の観察記録に生かす写真を自分で撮影し、それを保存する。
- 自分で撮影した写真を基にスケッチする。（拡大して観察することも可能）

6 評価について

ICTを活用することが目的ではなく、各教科等のねらいを達成すること目的であることは言うまでもありません。しかし、ICTを活用して「何をできるようにさせたいのか。」はっきりさせることは大切です。

<調べ学習のルーブリックの例>

尺度	4	3	2	1
観点	自分の課題を解決するための技能			
評価基準	自分の課題を解決するために必要な情報を的確に集めて、その根拠を説明することができる。	自分の課題を解決するために必要な情報を複数集めることができる。	自分の課題を解決するために必要な情報と必要ない情報を区別することができる。	自分の課題を解決するために必要な情報を選ぶことができない。

※ 調べ学習以外でICTを活用する場合でも、教師がICTを活用する目的を明確にするだけでなく、児童自身が「何ができるようになればよいのか。」目標を意識して取り組ませることが大切です。